

企画展
Museum Collection Exhibition

やきもの名品紀行

中国・日本・朝鮮半島

A Ceramic Travelogue:
China, Japan, and the Korean Peninsula



やきもの、すなわち陶磁器は、土を練り、形を作り、焼き固めて生み出されるものです。古来、食器や調理具、貯蔵具、装飾品などとして、私たちの生活と深く関わってきました。やがてそれらの中に、実用を超えた豊かな美が見出されるようになり、さらには、鑑賞を目的とするものも誕生しました。本展覧会では、2,300件におよぶ館蔵のやきものの中から名品約110件を選び、東アジアにおける展開をご覧ください。

まず展示室1では、1万年以上の歴史を誇る中国のやきものを、続く展示室2では、多様な美意識が反映された日本のやきものをご紹介します。そして階を上がり、展示室5では、清廉を尊んだ朝鮮半島のやきものを展覧します。

三つの展示室を巡る道のりは、海を越え、時を越えた、やきもの探訪の旅ともなります。そして、それが各地の風土が育んだ文化の一端に触れる体験となれば幸いです。

2026年 8月15日(土)～10月12日(月・祝) 日時指定予約制
根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>





中国

1 万年以上の歴史を誇る中国のやきもの。唐三彩や青磁、白磁、青花など革新的な技法を生み出し、世界をリードし続けました。究極の精度と華やかさを追求したやきものには、全世界が魅了されています。



中国・浙江省に所在した越窯系の水注と承盤。水注と承盤は、中国・北宋時代（960～1127）のやきものを代表する器種である。盤は、湯を張ることで、水注の中の酒を保温する役目を果たす。

せいじ ぼたんもんれちゆう しょうん
青磁牡丹文水注・承盤

2 口
中国・北宋時代 11 世紀
根津美術館蔵



赤と緑の絵の具で塗り詰め、そこに金彩で牡丹文が加えられた絢爛たる長頸瓶。金彩は、中国を代表する景德鎮窯の民窯で発展した。本作は堂々とした下膨れの姿が珍しい逸品である。

重要文化財

ごさいほうそうげもんべい けいどくちんよう
五彩宝相華文瓶 景德鎮窯

1 口
中国・明時代 16 世紀
根津美術館蔵

琳派を代表する画家・尾形光琳の弟・乾山（1663～1743）による土器皿。手づくねで成形した京都の土器皿に、鉄・呉須・金を用いて、四季折々の自然が琳派のデザイン感覚で描かれている。

重要文化財

さびえそめつけきんさいえがわりど きざら
銕絵染付金彩絵替土器皿
きょうと おがほんざん
京都 尾形乾山作

5 枚
日本・江戸時代 18 世紀
根津美術館蔵



乳白色の地に、吉祥を意味する三果文（桃・石榴・仏手柑）を鮮やかな色絵で描く。左右非対称の文様は日本人好みの構成。日本から欧州へ輸出された柿右衛門の最盛期の作と言える。

いろえさん かもんりょうかさら ひぜん
色絵三果文棧花皿 肥前

1 枚
日本・江戸時代 17～18 世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈



日本

日本のやきものは、後進ながらも、中国・朝鮮半島の技術をベースに、17 世紀以降、飛躍的に発展します。

素朴な土師器から、華やかな磁器まで、多様なやきものが好まれた点が特色です。



朝鮮半島

清らかさと実用性を尊ぶ感性が反映された朝鮮半島のやきもの。優雅な高麗青磁や、力強い粉青、質朴な白磁には、陶工の自然な作陶から生まれた美しさが満ち溢れています。



土を彫り、そこを白土で埋めて、文様をあらわす象嵌は、朝鮮半島のやきものに多用された技術。ただし、仏像や経典などを納置するための厨子は珍しく、本作はその貴重な例である。

ふんせいぞうかひぼたんもんずし
粉青象嵌牡丹文厨子

1 基
朝鮮半島・朝鮮時代 15 世紀
根津美術館蔵



三方向に十字形の花弁を有する花（水仙・桔梗・仙人草など諸説あり）、菊、蘭を描いた壺。朝鮮時代後期になると、清々しい白地に、呉須による清楚な青花文様が主体となった。

せいか そうか もんづぼ こうしゅうかんよう
青花草花文壺 広州官窯

1 口
朝鮮半島・朝鮮時代 18 世紀
根津美術館蔵 秋山順一氏寄贈

特別企画

「陶片をもってみよう」

日時：2026年9月26日（土）、10月3日（土）、10月10日（土）

各日とも午後1時30分～2時30分

会場：根津美術館 中2階ラウンジ

*事前申し込みは不要。

*参加は無料ですが、美術館入館料が必要です。



とうへん いたや はざん
陶片 板谷波山作

日本・明治～昭和時代 20 世紀
根津美術館蔵

関連催事

スライドレクチャー (事前申込制)

企画展「やきもの名品紀行 - 中国・日本・朝鮮半島 -」の担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。

日時：2026年8月28日（金）、9月18日（金） いずれも午前11時30分～午後12時30分

会場：根津美術館 講堂

定員：各回100名

*2回とも同内容です。

*7月14日（火）午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。

展示室6 名物茶陶

茶の湯における名物とは、古くから由緒のある優れた道具のこと。企画展「やきもの名品紀行」にあわせて、茶人に評価された名物のやきものを展観します。

戦国武将・柴田勝家が、主君である織田信長から拝領したと伝わる茶碗。端正な姿と淡い枇杷色が特徴で、青井戸の名品として知られる。



重要文化財

あおい どりゃわん しぼた
青井戸茶碗 銘 柴田

1 口
朝鮮半島・朝鮮時代 16 世紀
根津美術館蔵

同時開催

※最新状況、追加の催事については、当館ウェブサイトでご案内いたします。

展覧会名 企画展 やきもの名品紀行 ―中国・日本・朝鮮半島―

日時指定予約制

スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。(招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)

主催 根津美術館

開催期間 2026年8月15日(土)～10月12日(月・祝)

開館時間 午前10時～午後5時(最終入館 午後4時30分)

休館日 毎週月曜日。ただし9月21日(月・祝)、10月12日(月・祝)は開館し、9月24日(木)休館。

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1400円(1200円) 学生 600円(400円)
当日券(当館受付で販売) 一般 1600円(1400円) 学生 800円(600円)

- ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。高校生以下は無料(学生証の提示が必要です)。
- ・ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券は購入までお待ちいただくことがあります。また混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。
- ・2026年7月14日[火]午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
- ・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、
B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問い合わせ Tel. 03-3400-2536(代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の 学芸部 広報課 所/村岡
お問合せ Tel. 03-3400-2538(直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へどうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

特別展 舞楽装束

2026年10月24日[土]～11月23日[月・祝]

外来の楽や舞を取り込みながら独自の発展を遂げた日本の古典芸能・舞楽。本展では美しい裂や装飾品など細部にも着目しながら特色ある装束の美をご覧ください。



左：宛帯 紅地龍鳳凰花唐草模様金襴(部分)
日本・南北朝時代 貞和3年(1347) 銘
遠山記念館蔵

右：舞楽図屏風(部分) 久隅守景筆
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2026.5.)